



葛飾北斎「浮世画譜」より

平成24年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

山口町人安部氏の奥州旅日記

② 「みちのく行」
No. 5

了計也右見平山十二丈長

不沙所方也

三百步之及十云由上田十年

右方田年貢

舊地田

向長方

一廿四日早朝出立山臺道二十行

西三古城跡見東山所海上三三

波音高閣上二三 小高所 高甲

向水徑ヲ行十三

有少々

相馬妙見社 古田七百

御手洗水自 四月四日右佐

御祭事夏五月中申

以自御国主様御多路有之

公系山本中各口力ア午日

陽金 山と海 有之 既于山の中

一流 物より止まらば 是より二り

少きより 妙見 此と述せ 其の

是色より 沖に 延 千石 内見

内見の あり 此才の 二 金

ナラシ 也 四村 之 なる 金

公 橋人 育之 也 是の 青月 名を 云

手 三百 一本 此の 金 玉の 長

後 右 卿 土と 十リ 今 余 日 十

谷 誘ふ 金 橋 平の 金 方 三

已 大 五ノ 加 取 力 十 大

シキ 大 然 あり 十

ニクワシ 或は 金 十 十

才ハ けこ 多う じ 水 十 十

識目

〇 其 十 十

如 十 十

すハいこむらじ水の割又ハ水の心

十ハ夕夕と十ハ蘇生と十ハ如平手是

奇りりりりりり 依之 猿ハ水ハ紙ニ

シタシテ身テ 取地ニ 才ニシニクツ

又ハケウシ 其外 不ニ志ノケカ有テ

ハ紙水ニシラシハ 勢ナシハ 治スル

妙ニ云ハヤ 妙是 信ニ云

御社・音ノ 木ハ本城本丸崎有

登ニリヨセスニシテ 形如木自東

向西 依之 入木ト云ナリ

大木 無ウ者 石ニ云ハセリ

大木 元有 其境 去ラ以ウワニ高ク

モリノ立子リヘイ 如クニシテ 木平イ

テ 堅ク 以内 物子ノ 木ニ 其内 有 旗

山有瀆ねらるりし三四方三里の川
丁三里有ハカリナカウハ注還
亦ハ獲ク一里有ハ色ハ見

原可

米一斗ハ見ハルハニハト

二リ 森

中村

相馬御城下
六万石目

山有瀆ねらるりし三四方三里の川
中田ハ今五ハ石

一九月日晴ニヨリ小雨五ツハ出

二ハありハと

一ハ刻

二ハ本

一ハリハ山ハ下ハ名ハ也ハ二ハリハヤハ存ハ也

後日雨天ハ吹ハえハるハ大ハ雨ハ也ハ川ハ荒ハ隆

一九月六日早ハ起ハるハ止ハ知ハるハ也ハ二ハリ

一ハリハ山ハ下ハ名ハ也ハ二ハリハヤハ存ハ也

二ハリハ山ハ下ハ名ハ也ハ二ハリハヤハ存ハ也

一六六日早朝止知事

早一歩由

二リ

生

三

○正一位竹駒大明神社有

可共ヨリ 若スヲ得ニ行リ三丁余

早表有 スイミ州有 御本社立

ありモ 色リ至位ニ未社多ク

人白上キ十四代に明

小老中皇法皇

の系

女カ

立

大守

順

名

一七目
△武隈松有 △北松 一七か

多

一八九九丁 増田三十一丁 以万川有古橋

七丁間 中町三十一丁 以万川有古橋

今さら余長町 是ヨリ山を以て橋下

一八九九丁 玉小町

終夜雨 山野を以て雨 今ヨリ九九丁

一八七七日 雨天 滞り 古橋ヨリ 御城

大味わえ 吹雪 河壁 吾路久 是

桃井 久 与らちりて

お辰 切方のわき 岩瀬 橋の上 是

泉 有 十 七 丁 間 社 園 有 以 水

お辰 切方のわき 岩瀬 橋の上 是

お辰 切方のわき 岩瀬 橋の上 是

中 町 三 十 一 丁 以 万 川 有 古 橋

瑞 風 夜 二 感 世 念 三 美 夜 夜 為 是

お辰 切方のわき 岩瀬 橋の上 是

○ 瑞鳳殿ニ感絃奏ニ善き夜夜より

○ 御経書ニ就けし今世の如く

○ 今世にありしは有りしは有りし

○ 今世にありしは有りしは有りし

○ 今世にありしは有りしは有りし

○ 今世にありしは有りしは有りし

一丈八日五寸可三十一寸

▲ツノカ国 新加 堂上 茶や有

天神宮 ○ 櫓 白のモクシシヤ
是ヨリ巨カを記して
金花山にて千五百九

天神明社 是ヨリ巨カを記して
金花山にて千五百九

○ 本下 国分寺 宗院主別當
二十四坊堂アリ

○ 薬師如来堂上

天 天王 天 白山宮 日守り東方へ
ハ丁ノ行

▲ 宮城野 仙下四方ト見
松林白木今ハ松林ニ
ス、キイナラト云

はまきくまのてしとるるらまの
ツルヒソク〜 雲の〜

○ 尾上寺 有
▲ 一ととあり 北

白のあかあきししれいあまは
かしら九少のまなむ

▲ 多胡南